

●ブックトークシナリオ

【テーマ】 動物と暮らしたら！？

【対象】 小学校3・4年生

【所要時間】 20分

シナリオの記載方法について

- ・動作は□で囲ってあります。
- ・表示したページ番号は、ここで使用した本によります。版が違えば、確認してください。
- ・本を朗読する部分は、【 】で囲った太字になっています。
- ・本と本をつなぐ言葉は二重下線を引いてあります。

【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	がんばれヘンリーくん	ベバリイ・クリアリー／作 松岡享子／訳 ルイス・ダーリング／絵	学研教育出版	2007
2	365 まいにちペンギン	ジャン＝リュック・フロマン タル／ぶん ジョエル・ジョリヴェ／え 石津ちひろ／やく	ブロンズ新社	2006
3	もうどう犬ベェベ	セアまり／文 平澤朋子／絵	ほるぷ出版	2018
4	ぼくは学校ハムスター 1 ハンフリーは友だちがかり	ベティ・G.バーニー／作 尾高薫／訳 ももろ／絵	偕成社	2023
5	ウマと話すための 7つのひみつ	河田棧／文・絵	偕成社	2022

【シナリオ】

●導入

今日は、「動物と暮らしたら！？」というテーマで、本を紹介します。さて、どんな動物が登場するのでしょうか。

1 『がんばれヘンリーくん』

表紙を見せ、男の子（ヘンリー）のイラストを指さす

この男の子の名前はヘンリー、小学校3年生です。ある日の放課後、ヘンリーはバスに乗って町のYMCAに泳ぎに行きました。1時間泳いだ後、店でアイスクリームを買って食べていると、近くでこんな音がしました。「ゴシゴシゴシ」。いったい何の音でしょう？ その場面を読みます。

p.7 7行目～9行目を読む 【ヘンリーが、アイスクリームをなめなめ（中略）すぐ後ろに犬がいて、しきりにからだをかいています。】 音の正体は犬でした。おなかをすかせた犬で、ヘンリーがアイス进行分けると、ついてきました。

p.9 9行目～p.10 11行目を読む 【ヘンリーは、犬をじっと見ました。（中略）おまえのこと、アバラーってよぶことにするよ。やせて、あばら骨が見えているからな。】ヘンリーがお母さんに電話して、犬を家で飼ってよいか聞くと、お母さんはこう言いました。

p.13 12行目～p.14 3行目を読む 【「そうね、じゃあ、いいわ。おまえが犬を飼ってはいけないという理由は、べつにないんですものね。でも、バスに乗せて（中略）おかあさん、むかえにいってあげられませんかね。できる？」】できると答えたヘンリーは、アバラーと一緒にバスに乗ろうとしました。するとバスの運転手が言いました。

p.15 7行目～p.16 1行目を読む 【「おい、坊や、犬はバスに乗せられないよ」（中略）生きものに乗せるときは、きちんと、箱に入れなきゃだめなんだよ。」】

表紙を見せ、箱を指さす

そこで、ヘンリーはアイスクリームを買った店に戻り、大きな箱をもらいました。それから、アバラーに箱の中に入るように命令し、重くなった箱をやっと持ち上げました。さて、次にやって来るバスにアバラーを乗せて、無事に家まで、連れて帰れるでしょうか？ 続きを知りたい人は、『がんばれヘンリーくん』を読んでみてください。

2 『365 まいにちペンギン』

ヘンリーが町で見つけたのは、ペットとして飼われることが多い「犬」だったので、お母さんもしぶしぶ飼ってもいいと言ってくれました。

表紙を見せる

ところが、この絵本に登場する家には、動物園や水族館でしか見たことがない珍しい生き物がやって来ました。途中まで読んでみます。

最初から、1月の終わりにペンギンの数が31羽になった場面まで読みきかせ 【『365 まいにちペンギン』 1月1日のあさ9じ、たつきゅうびんのおにいさんがげんかんのベルをおした。（中略）1月のおわりになると、うちにはちょうどきっかり……31羽のペンギンがいた。】 家の中はソファもピアノの上もペンギンでいっぱいです。ところがペンギンはその後も毎日、宅急便で一羽ずつ送られてきます。いったい誰が何のために送ってくるのでしょうか？

表紙を見せる

この『365 まいにちペンギン』を最後まで読むとその答えがわかります。

3 『もうどう犬ベえべ』

『365 まいにちペンギン』に登場した家族は、誰かに勝手に送り付けられたペンギンと仕方なく一緒に暮らしていました。

表紙を見せ、女性（メグ）、犬（ベえべ）の順に指さす

けれども、この本『もうどう犬ベえべ』に登場するメグという女性は、ベえべという名前の犬に、病気で見えなくなった目の代わりをして助けてほしい、と思って一緒に暮らし始めました。

p.2 1行目～5行目を読む 【ベえべはもうどう犬です。もうどう犬というのは、見えないひとといっしょに歩いて、目のかわりをする犬のこと。】

p.4 女性（メグ）を指さし、p.4 1行目～p.5 4行目を読む 【3年ほど前、目がどんどん見えなくなっていく病気になるメグは、つらくて、こわくて、（中略）メグはもうどう犬と暮らす決心をしました。】

p.9 右下の真正面を向き歩く女性（メグ）と犬（ベえべ）を指さす

メグとベえべは歩く訓練をした後、一緒に暮らし始めました。

p.12 女性（メグ）を指さし、1行目～4行目を読む

メグがベえべに助けてもらいながら一緒に歩く場面があります。【きのうの晩、メグはきょうの目的地を調べ、（中略）ぶつからないように歩いてもらうのです。】

p.13 真ん中の女性（メグ）を指さし、1行目～6行目を読む 【げんかんをでたら、さっそくベえべのお仕事。メグに段差をおしえ（中略）うまくできたら、ほめてあげます。】

表紙を見せる

盲導犬がどんな仕事をしているのか詳しく知りたい人は、この『もうどう犬ベえべ』を読んでみましょう。

4 『ぼくは学校ハムスター 1 ハンフリーは友だちがかり』

盲導犬ベえべは、メグが出す指示の言葉【ライト（右に行って）、ストレート（まっすぐ）】を理解して働いていましたが、指示の言葉以外の、人間が使う言葉全部がわかるわけではありません。

表紙を見せ、ハムスター（ハンフリー）を指さす

ところが、この『ぼくは学校ハムスター 1 ハンフリーは友だちがかり』に登場するゴールデン・ハムスターは人間が使う字を読んだり、書いたりすることができます。

ハムスターの名前は、ハンフリー。マック先生がペットショップで見つけて、小学校の26番教室で飼い始めました。ハンフリーがどのぐらいの期間で、字が読めるようになったか書いてあるので読んでみます。

p.13 3行目～9行目を読む 【先生にはないしょだけど、ぼくは少しだけ字が読める。(中略) えんぴつで字を書く練習もはじめたよ。】 ハンフリーは月曜日から金曜日は教室で、学校が休みになる土曜日と日曜日は子どもたちの家で過ごすことになりました。親切なハンフリーは子どもが何かに困っているとわかると、解決するための手伝いをするようになりました。

p.39 女の子(サヤ)を指さす

例えば、恥ずかしがり屋のサヤという女の子は、テストは全部百点なのに、授業中、当てられても絶対に答えを言いません。ハンフリーは、サヤの家に行ったとき、サヤが家族とハンフリーの知らない言葉でしゃべっているのを聞きました。サヤがハンフリーに言いました。

p.91 14行目～p.92 6行目を読む 【「ハンフリー、わたしの秘密がわかったでしょ。うちの家族は英語が話せないの。(中略) 小さいころ、笑われたんだ。」】

それからサヤは、ハンフリーにあるお願いをしました。

p.92 10行目を読む 【「じつはハンフリーに、ママに英語を教えるのを手伝ってほしいの。」】 ハンフリーは、サヤのママに英語を教えたり、恥ずかしがり屋のサヤが教室で話せるようにそっとお手伝いします。

表紙を見せる

ハンフリーが大活躍する物語『ぼくは学校ハムスター 1 ハンフリーは友だちがかり』はシリーズの第1巻です。読んでみて気に入ったら、続編もどうぞ。

5『ウマと話すための7つのひみつ』

『ぼくは学校ハムスター』では、ハンフリーが人間の言葉を覚え、字を読んだり書いたりできるようになったので、子どもたちのことがよくわかり、仲良くなれました。では、逆に、人間が動物の言葉を知っていれば、もっと動物の気持ちがわかったり、仲良くなれるかもと思いませんか？

表紙を見せる

動物の言葉について書かれた本があります。『ウマと話すための7つのひみつ』。本を書いた河田さんは、子どもの頃、「動物と話せたらいいな」と思っていました。その後、馬と出会い、今は与那国島で馬と暮らしています。河田さんが教えてくれる馬の言葉、馬語を見てみましょう。

p.11 2行目～4行目まで読む 【ウマは体の動きで、いまの気持ちをつたえています。(中略) 体の部分に注目してみましょう。】

p.12 イラストを見せ、1行目～p.13 4行目まで読む 【耳のことば これがふつうのときの耳の角度です。(中略) おこっているときは、耳をひきしぼるように、後ろにたおします。】

p.14 イラストを見せ、1行目を読む 【鼻のことば】

p.16 イラストを見せ、1行目を読む 【目のことば】

p.17 イラストを見せ、1行目を読む 【口のことば】

p.18 イラストを見せ、1行目を読み、上の馬を指さす 【脚のことば】 もあります。では、ここでクイズです。この脚の言葉はどんな意味でしょうか？

p.18 3行目を読み、子どもの発言を聞く 【片方の前脚で地面をかきます。】

p.18 イラストを見せ、2行目を読む

答えは【じれったい気持ちのとき】です。

p.22 上の馬を指さし、3行目、次に2行目を読む

声の言葉もあります。【「プフフフ」と、低いこもった声を出】すときは、【なかよしのウマによびかけるときや、あまえたいとき】です。

表紙を見せる

『ウマと話すための7つのひみつ』には、馬語がたくさん紹介されています。いくつか覚えて、是非とも馬と話をしてみてください。

●まとめ

紹介した本の表紙を順に見せ、本の書名を言う

今日は、「動物と暮らしたら!？」というテーマで本を紹介しました。

町で出会った犬アバラーを飼うため、バスに乗せようとする男の子の物語『がんばれヘンリーくん』、毎日ペンギンが家に宅急便で届くお話『365まいにちペンギン』、目が不自由なメグさんを助けて働く犬が登場する『もうどう犬べえべ』、字を読んだり書いたりでき、困っていると助けてくれるハムスターの話『ぼくは学校ハムスター 1 ハンフリーは友だちがかり』、馬の言葉を教えてくれる『ウマと話すための7つのひみつ』です。

今日紹介した本は、全部図書館にありますので、ぜひ読んでください。

【その他の本】 こちらの本もおすすめてです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『飼育委員はアキラめない』 小松原宏子／作 あわい／絵 静山社 2021年
- ・『くまのパディントン』 マイケル・ボンド／作 松岡享子／訳 ペギー・フォートナム／画 福音館書店 2002年
- ・『きみの声がききたくて』 オーウェン・コルフアー／作 P.J.リンチ／絵 横山和江／訳 文研出版 2020年
- ・『パイパーさんのバス』 エリナー・クライマー／作 クルト・ヴィーゼ／絵 小宮由／訳 徳間書店 2018年
- ・『介助犬チェリーのパピーウォーカー』 山口理／作 岡本順／絵 文研出版 2021年
- ・『アルバートさんと赤ちゃんアザラシ』 ジュディス・カー／作・絵 三原泉／訳 徳間書店 2017年
- ・『のら犬ボン』 たじまゆきひこ／作 くもん出版 2017年

山梨県立図書館 2025.3